

TRPU NEWS

富山県立大学ニュース

NO. 138

| Spring | 2024



p.2-3 Close-Up県大

情報化時代を担う人材育成を目指して 令和6年4月、情報工学部を新設

p.4 退職にあたり

p.8 受賞情報

p.4-6 キャンパストピックス

p.9 インフォメーション

p.6 学生レポート

p.10 サークル紹介・スケジュール

p.7 研究紹介

新学部の教育の特色や
人材育成の方針などについて、
学部長予定者の高木昇教授に
お聞きしたのじゃ。



「ドンドンマスマス 富山県立大学」
プロジェクトリーダー ドンマス教授

情報化時代を担う人材育成を目指して 令和6年4月、情報工学部を新設

令和6年4月、富山県立大学では情報工学部を新設し、令和8年4月には新校舎の供用開始も予定しています。今号では、新学部の特徴や人材育成の方針などについて、学部長予定者の高木昇教授（現・工学部知能ロボット工学科教授）に解説していただきました。



情報工学部
学部長予定者
高木昇教授
(現・工学部 知能ロボット
工学科教授)

平成2年、工学系の単科大学として開学した富山県立大学。当初は機械システム工学科、電子情報工学科の2学科からのスタートでした。それが令和5年度までに2学部8学科に拡充（工学部は7学科）。そして令和6年度のデータサイエンス学科新設にあわせて工学部の再編を行い、情報系の3学科（データサイエンス学科、情報システム工学科、知能ロボット工学科）をまとめて情報工学部とし、新たに3学部9学科の体制としてスタートすることとなります。（図表1）

データサイエンスとは、数学、統計学、機械学習、データマイニングなどの理論（データのばらつきや偏りなどを調べるための学問）を用いてデータの分析や解析を行い、新しい価値を見出し社会へ還元するための学問分野のこと。データサイエンスの応用は、工学、環境学、医学、薬学、農学、経済学、社会学、人文科学など多岐にわたり、看護学の分野でも新しい取り組みが期待されています。

課題発見解決力を習得する

データサイエンス学科新設にあわせて、「情報工学部」を新設することのメリットについて、高木教授は、

「世の中の情報化が急速に進み、IT系の人材育成が急務となっています。データサイエンス学科を従来の工学部の中に設置するよりは、情報系の学科を集め学部も新たにされた方が、カリキュラムを柔軟に組めますし、そうした社会のニーズに迅速に対応することができます」と語ります。

経済産業省が平成31年4月に発表した「IT人材需給に関する調査」では、「2030年（令和12年）には45万人のIT人材が不足する」と試算されていますが、本学の試みはこうした課題に応えるものでもあります。

情報工学部の教育の特徴を、図表2にまとめました。

「データサイエンスの専門教育」は3学科横断的に行われ、データサイエンス学科ではより深く学びます。またデータサイエンス学科の新設を期して、データを適切に理解・活用する基礎的な能力を修得することを目的に「データサイエンスリテラシー」の授業を設け、情報工学部だけでなく工学部や看護学部でも必修科目とします。

「少人数によるゆきとどいた教育」は全学に共通することですが、教員1名につき学生3名程度という「教員と学生の

距離が近い”環境を整え、教育・研究指導の充実を図るもの”です。

「デザイン思考による課題発見解決力」を習得するために、新しい試みとして、デザイン思考についての授業を取り入れます。デザイン思考とは、潜在的な課題を顕在化させ、仮説・検証を繰り返し試行することで、解決策を発見しようとする思考法のこと。その実例として、高木教授はあるゲーム機メーカーの製品開発のプロセスを挙げました。

要約して紹介すると……。ゲーム機メーカーのA社では、ヒットするゲームを開発するため、デザイン思考を実践しながら方向性を探りました。ゲームを楽しむのは小中高生が多いと想定されますが、それを購入するのはほとんどが親です。そこで多数のお母さん方を集めて意見を聞き、「親もいっしょに楽しめるゲームがいい」と集約された意見をヒントに、後のヒット商品となったゲームが開発されたそうです。

県内企業とも連携して

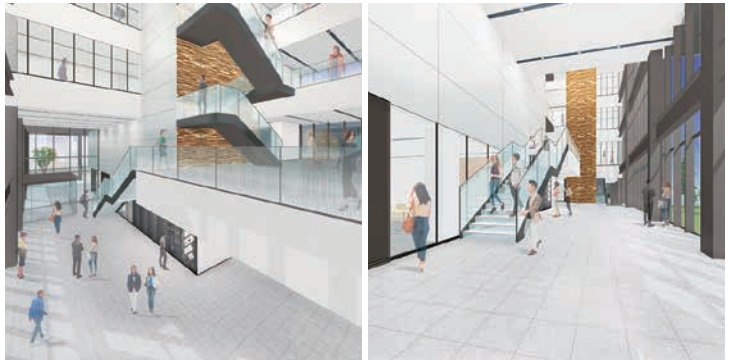
「企業の技術者との連携授業」では、企業や官庁で活躍する若手技術者を講師として招き、仕事上の経験や学生のうちに習得しておくべき事柄などについてオムニバス形式で学びます。「富山県はものづくり産業が盛んで、県内企業200社以上が加盟する富山県機電工業会がこの授業に協力してくれますので、学生の職業観形成の一助になるでしょう」と高木教授は付言されました。

「人間性豊かな技術者の育成につながるカリキュラム編成」も情報工学部の教育の特徴の1つです。本学部では1年次から専門教育を学習し、基礎学力と広い視野を同時に身につけるクサビ型カリキュラムを導入し、高学年次でも教養教育科目を履修できるようにしています。これにより豊かな人間性と幅広い視野を持った技術者の育成を図っています。

「学生の自立を促すキャリア教育」は、全学共通の特徴でもあります。情報工学部では3年次から、学生のキャリア形成につながる実践的なプログラムを実施します。工学部ではこれに取り組み、高い就職率に結びついてきました。



令和8年4月供用開始予定の新校舎。



理系のデータサイエンスの学科を目指す

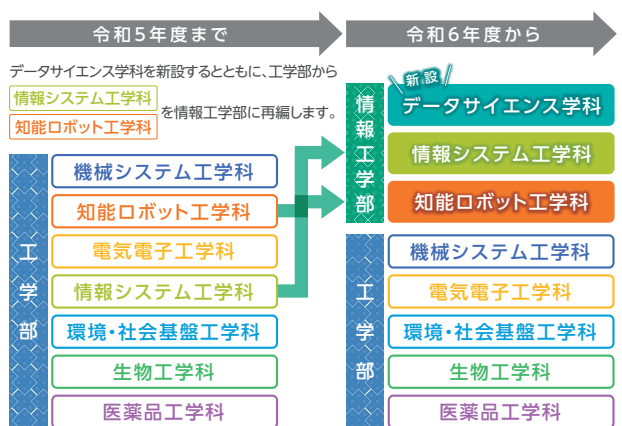
教育にこのような特色を持つ情報工学部の各学科は図表3に示したような人材育成を目指します。新設のデータサイエンス学科を卒業しての将来、仕事の間として活躍が期待されるのは、通信・IT・メディアなどの情報産業、製造業、製薬、金融、教育、医療・保険、流通小売業のほかに、国や地方の公務員も想定されます。

IT系人材の需要増に応えようと、データサイエンス学科を新設する大学が増えています。その中で本学のデータサイエンス学科の特徴について高木教授は、

「近年、新設されるデータサイエンス学科を俯瞰すると、その多くは文理融合です。最近ではプログラミングなどのツールがパッケージ化されているため、それを利用すれば文系の方でもデータ解析ができますが、プログラミング言語などを理解することで、より高度なデータ解析が可能になります。そこで本学では理系のデータサイエンス学科を志向し、より高度な人材育成を目指すことにしました」と語ります。

また、本学には他学部履修制度があります。例えば看護学部の3、4年生が、看護活動で得られるデータを解析するために、専門的なことを学びたいと希望する場合、一部の専門科目ですが履修可能にする予定です。こうした連携も本学の特色であるといえます。

図表1 情報工学部新設に際しての学部再編



図表2 情報工学部の教育の特色

- ① データサイエンスの専門教育
- ② 少人数によるゆきとどいた教育
- ③ デザイン思考による課題発見解決力
- ④ 企業の技術者との連携授業
- ⑤ 人間性豊かな技術者の育成につながるカリキュラム編成
- ⑥ 学生の自立を促すキャリア教育

図表3 情報工学部の学科構成と各学科の教育目標

データサイエンス学科	情報システム工学科	知能ロボット工学科
<p>データサイエンスの理論と応用実践を教育するとともに、情報を軸とする工学の専門知識を教育することで、工学のマインドを持ったデータサイエンスのエキスパートを育成します。</p>	<p>リアル世界とバーチャル世界から得られるデータを活用するための情報基盤技術を教育し、新しい情報システムの開発に貢献できる人材を育成します。</p>	<p>情報・機械・電子の3つの工学分野に立脚するロボットに関わる工学やデータサイエンスの基礎を教育するとともに、革新的な科学技術を創造できる人材を育成します。</p>

工学部 知能ロボット工学科
教授 大島 徹



1990年の開学から34年もの長い間、本学において教育研究、大学運営、地域貢献と幅広く携わることができましたこと、教職員をはじめとする多くの皆様方の温かいお力添えの賜物と心から感謝申し上げます。

開学当時、初代学長の藤井澄二先生からは、工学教育から大学教育全般まで深くご教授いただくとともに、ロボットとバイオメカニズムの研究について先を見据えた様々なご助言をいただきました。お陰様で、一貫してロボット工学と制御工学を中心とする教育を進めることができた一方、筋骨格系の運動制御という新しい分野で多くの学生の皆さんとともに学び、挑戦し続けることができました。また、ロボット技術と福祉機器を通して地域社会の発展に微力ながらご協力させていただくこともできました。駐車場から研究棟へ向かう途中にある藤井澄二先生退任記念の桜に日々励まされながら過ごした充実した幸せな34年間でした。

皆様のご健康とご活躍をお祈りし、変化の激しい社会の中で発展し続ける本学を応援していきたいと思っております。ありがとうございました。

工学部 情報システム工学科
教授 太田 聡



企業を出て、本学に着任したのは2006年4月のことですから、18年の間、本学にお世話になりました。その間、不慣れもあれば自らの非才もあり、大学業務の難しさにはなかなか苦勞してきました。この間を振り返れば、若い人に何かを教えることでも、大学運営でも、下手な方でしたから学生や教職員の皆様には何かと迷惑をお掛けしたことと思います。研究についても、本学の他の教員の皆様は私よりもずっと密度濃く進めておられるでしょう。それでも自分らしさを発揮した研究成果が少しはあって、たとえば研究者キャリアの最初に手掛けたスイッチ網理論の分野に関し、若い頃には解けなかった問題の解を明らかにできたことなど、それなりの達成感はあるのです。どうもプロの大学教員になりきれなかった気分もどこかに残りつつ本学を去るのですが、一方で若い人の学位取得に貢献し、研究によって人類の知恵を進歩させる、大学教員の役割を少しでも果たせたことは良かったと考えています。この間、サポート頂いた皆様にお礼申し上げます。どうぞ皆様、お元気で。

Campus Topics

キャリア支援(就職・進学)セミナー

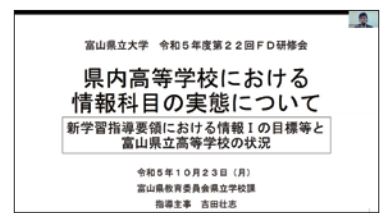
8月26日(土)に「キャリア支援(就職・進学)セミナー」をオンラインで開催しました。当日は、鈴木キャリアセンター所長による本学の就職・進学状況や就職支援体制についての説明、(株)マイナビによる就職活動に関する講演、学生3名による就活体験談の発表を行い、81名の保護者や学生に参加いただきました。



第22回工学部FD研修会

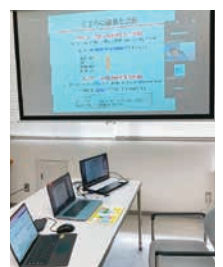
10月23日(月)に工学部教員を対象としたFD研修会をオンラインで開催しました。FDとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みのことです。

県内高等学校における情報科目の実態や、令和6年度から本学で導入するデータサイエンスリテラシー科目等に関する発表が行われました。



ネクスト・ファーマ・エンジニア養成コース

9月4日(月)から10月31日(火)の期間で、将来の富山県の医薬品産業を支える人材の育成と確保のため、富山大学と連携して創薬・製薬・バイオ医薬・和漢薬など魅力的なカリキュラムを提供し、全国から集まった43名が修了証を手に入れました。



第8回 英語スピーチコンテスト

10月20日(金)に、第8回 富山県立大学学長杯争奪 英語スピーチコンテストを開催しました。今回は学部1～2年次の学生10名が出場して、日頃から取り組んできた練習の成果を発揮しました。皆さんのとても素晴らしいスピーチに、感銘を受けました。



第34回 県大祭 開催!!

10月21日(土)、22日(日)に「第34回 県大祭」が開催されました。

「煌～kirameki～」をテーマに、焼き鳥や豚汁等の模擬店、豪華芸能人によるトークショーやサークルによるステージ発表など、大きな賑わいを見せました。

学生はもちろん、地域の方にもご来場いただき、大盛況で終わりました。



田中 耕一先生(本学特任教授) による特別授業

10月18日(水)、ノーベル化学賞受賞者である本学の特任教授 田中耕一先生(株)島津製作所エグゼクティブ・リサーチフェロー)による特別授業が大講義室で開催されました。

授業では、質量分析の技術が癌やアルツハイマー病の早期発見や感染症の診断等、様々な分野に応用できることをご紹介いただいたほか、ある分野の考え方や技術を他の分野に応用することでイノ



ベーションが起こる可能性があることなど、自らのご経験を踏まえた貴重なお話をいただきました。

令和5年度 高校生向け科学技術体験講座

8月8日(火)に大門高校、8月24日(木)に呉羽高校、12月12日(火)に富山東高校の皆さんを招き、講座を実施しました。受講生は、大学での専門的な講義や実験を大学の施設を利用して体験すること

で、科学・技術への関心を高めるとともに、担当教員やアシスタントの学生との会話からも、本学の様々な魅力を感じた様子でした。



8/8大門高校 吉河先生講座
「電子回路製作体験講座
～センサと電子回路について考えてみよう～」



8/24呉羽高校 宮島先生講座
「機械の中の摩擦のお話と摩擦実験」



12/12富山東高校 生城先生、西川先生講座
「健康状態を見える化する(動物の健康診断をしてみよう!) :
CT検査、血液生化学検査」

富山県機電工業会による 特別講義

知能ロボット工学科では、富山県機電工業会による特別講義を後期授業として開講しました。本講義は今年で9年目を迎えます。富山県産業が得意とするアルミ、金型、工作機械、電気・電子部品、情報技術分野で活躍する本学のOB・OGを含む技術者が講師を務め、講義と工場見学を行いました。また、2回のグループワークを通じて、若手技術者としての働き方について活発な議論が行われました。



富山県立大学秋季公開講座

電気電子工学科の教員が講師となり『スマート社会を実現するエレクトロニクス技術』をテーマに11月に秋季公開講座を開催したところ、延べ184名に参加いただきました。「身近な問題がテーマで理解しやすかった」「富山県を対象にした内容で身近に感じることができた」などの感想をいただきました。



Campus Topics

第5回 日本ユマニチュード学会総会の開催

9月23日(土)・24日(日)、岡本恵里副学長が学術集会長となり「第5回日本ユマニチュード学会総会」が『ユマニチュードの可能性～教育の中にユマニチュードを取組む～』をテーマに富山キャンパスで開催され、全国から2日間延べ300名が参加しました。

総合司会は松井弘美看護学科長が務め、基調講演『社会を支える基盤としてのユマニチュード』では、本学客員教授のイヴ・ジネスト氏がユマニチュードを学ぶことの意義について話されました。

看護学部では「看護ケアとユマニチュード」を4年間で系統的に学べるカリキュラムを組んでいます。学術集会長講演『ユマニチュードを学んだ看護学生の4年間の軌跡』では、学部生と共に歩んだユマニチュードの教育内容について話されました。



青柳寿弥准教授が座長を務めたシンポジウム『ケア・キュア実践者にとってのユマニチュードの可能性』では、1期生卒業の荒谷美波さん(富山県立中央病院看護師)がシンポジストとして登壇し、学生時代に学んだユマニチュードが、看護師として患者さんとかかわる際の自分の強みと語っていました。

令和5年度 富山県立大学環境講演会

11月9日(木)に環境講演会を開催し、「今求められるネイチャーポジティブ社会」と題して、名古屋大学名誉教授の夏原由博氏にご講演いただきました。総勢321名の参加者が生物多様性保全の重要性や現在行われている取り組み等の説明を受け、人間社会持続のために私たちが何をすべきかを考えるきっかけとなりました。



Report from students 学生レポート

トピックゼミでの学び

看護学部2年 浅生山 結子

トピックゼミでは、私は、術後回復意欲を高めるためのイメージ獲得への術前看護というテーマを設定し、文献調査や現地調査を行いました。

文献調査や現地調査では、術後経過がイメージしていたものと同じように辿ることで患者は回復の実感を得られるということや、時には間違っただけの思い込みによって回復が遅れることがあるということを学びました。

これらの学びから、術前に術後のイメージを持てるような情報提供などの看護をし、実際の経過をイメージと同じようにたどるように調整することで、患者に回復の実感をさせてあげることができ、安心感や信頼関



成人看護学(急性期)ゼミでの発表

係構築にも繋がるのではないかと考えました。

また、術前に、術後の苦痛の緩和のための準備などを説明する際には、患者がその対処法についてどのように考えるのかも聞くことで、術前から患者の間違った思い込みを正すことができ、術後の対処について納得して臨むことが、回復意欲を高めることに繋がるのではないかと考えました。

一つひとつの学びを活かし、より良い看護ができるよう今後の実習に取り組みたいと思います。

AI画像処理による高齢者の見守り

近年、世界の高齢者（65歳以上）の割合は年々増加しています。さらに、核家族化が進んでおり、その結果、高齢者の多くは一人で暮らしています。一人暮らしの高齢者における深刻な問題として、転倒事故が挙げられます。一人暮らしの高齢者は、筋力の低下や、歩行障害、視力の衰え、心疾患、脳血管疾患などの原因によって転倒し、発見が遅れると、命の危険もあります。従って、転倒などの危険を自動的に検出し、助けを求めるシステムが必要とされています。

現在の高齢者を見守るシステムは、「レーダ型」「着用型」「画像処理型」に分類されます。着用型は、ウェアラブルデバイス（センサ）を用いて、高齢者の転倒をリアルタイムに検出します。しかし、高齢者がデバイスの充電や着用を忘れた場合は保護されません。

当研究室は、画像処理型の高齢者を見守るシステムを開発しています。プライバシー保護のため、カラー画像

を撮影するカメラではなく、距離情報を取得する深度カメラを使用しています。深度カメラで撮影した画像をAI画像処理技術で解析し、高齢者の危険をリアルタイムで検出します。また、県内の企業と共同でレーダ型の高齢者を見守るシステムの開発にも取り組んでいます。



AI画像処理による見守りシステムの一例

水と人間活動の交わる領域：水文学の魅力と課題

読者の皆さんは「水文学(すいもんがく)」という学問をご存じでしょうか？

水文学は、水に関連する様々な事象を科学的に研究する学問です。水の循環、降水量の分布、河川水位の変動、洪水時のダムの管理、そして河川氾濫による被害予測など、水の物理的な性質や水理構造物の仕様を基に、数値シミュレーションなどを通じて未知の水の現象を解明します。水文学の特徴的な点は、人間活動が水に及ぼす影響も研究対象としていることです。これが水文学の魅力であり、同時に複雑な議論を生む要因でもあります。

2023年7月、富山県でも線状降水帯による洪水が発生しました。読者の皆さんも、水害に対する意識が変わってきているのではないのでしょうか。未経験の災害に備える方法について議論することは、水文学が取り組むべき重要なテーマであり、私たちの研究対象でも

あります。環境・社会基盤工学科「河川・水文研究室」では、このような水に関わる多岐にわたるテーマに取り組んでいます。



気象レーダを見学し、大満足の研究室メンバー
(富山防災センターの水橋レーダ)

受賞情報

教員の受賞

受賞日順、学科名、職位は受賞時のもの

布施 陽太郎 助教/工学部 知能ロボット工学科

日本感性工学会
第25回日本感性工学会大会優秀発表賞

他者の距離規範の推定に基づく集団内での
適応的移動を試みるエージェントの評価

R5.11.28受賞

西原 功 講師/工学部 情報システム工学科

中田 崇行 教授/工学部 情報システム工学科

芸術科学会 NICOGRAPH 2023
優秀論文賞(ショートペーパー)

R5.12.2受賞

室谷 寛 助教/看護学部 看護学科

(共著)片田 裕子 教授/看護学部 看護学科

公益社団法人日本看護科学学会
第43回日本看護科学学会学術集会 若手優秀演題口頭発表賞 優秀賞

慢性期看護を行う病棟看護師の
多職種連携における困難感とその要因

R5.12.10受賞

学生の受賞

学科名、学年、指導教員の職位は受賞時のもの

塩田 和樹 博士前期課程生物・医薬品工学専攻1年

日本木材学会中部支部 優秀発表賞

指導教員: 准教授 岸本 崇生、教授 占部 大介

R5.10受賞

重 昂輝 博士前期課程機械システム工学専攻2年

ASME Noise Control and Acoustics Division Student
Paper Competition Excellent Paper Award

指導教員: 准教授 寺島 修

R5.10受賞

山口 愛由 博士前期課程生物・医薬品工学専攻2年

第68回リグニン討論会 学生優秀ポスター賞

指導教員: 准教授 岸本 崇生、教授 占部 大介

R5.11受賞

高島 充希 博士前期課程機械システム工学専攻2年

一般社団法人 軽金属学会
第145回 秋期大会 優秀ポスター発表賞

指導教員: 准教授 伊藤 勉

R5.11受賞

山岸 巧 工学部 知能ロボット工学科4年

精密工学会 北陸信越支部学術講演会
ベストプレゼンテーション賞

指導教員: 准教授 伊東 聡

R5.11受賞

津田 樹 工学部 知能ロボット工学科4年

精密工学会 北陸信越支部学術講演会
ベストプレゼンテーション賞

指導教員: 准教授 伊東 聡

R5.11受賞

富岡 剛大 博士前期課程知能ロボット工学専攻1年

精密工学会 北陸信越支部学術講演会
ベストプレゼンテーション賞

指導教員: 准教授 伊東 聡

R5.11受賞

高橋 美優 論文準修士コース(環境・社会基盤工学専攻)

日本水環境学会中部支部 優秀発表賞

指導教員: 教授 川上 智規

R5.11受賞

武田 尚恭、井上 達哉、福埜 光一、清瀧 亮
博士前期課程機械システム工学専攻1年

テクノ愛 2023 奨励賞

指導教員: 准教授 寺島 修

R5.11受賞

高橋 昂也、重 昂輝、小林 将、李 喆
工学部 機械システム工学科4年

テクノ愛 2023 奨励賞

指導教員: 准教授 寺島 修

R5.11受賞

脇谷 銀次 工学部 電気電子工学科4年

令和5年度応用物理学会北陸・信越支部発表奨励賞
「フィルタアレイ型マルチスペクトルカメラの有効フィルタ数の検討」

指導教員: 教授 大寺 康夫

R5.12受賞

坂東 裕太 博士前期課程電子・情報工学専攻2年

芸術科学会 NICOGRAPH 2023
優秀論文賞(ショートペーパー)

指導教員: 教授 中田 崇行

R5.12受賞

吉崎 達矢 博士前期課程環境・社会基盤工学専攻2年

第3回地盤工学会北陸支部
ユースネットワーク研究発表会 優秀発表賞

指導教員: 講師 兵動 太一

R5.12受賞

吉崎 達矢 博士前期課程環境・社会基盤工学専攻2年

The 5th International Conference on Geotechnics
for Sustainable Infrastructure Development
Best Poster Presentation Award

指導教員: 講師 兵動 太一

R5.12受賞

塚西 弘輝 博士前期課程環境・社会基盤工学専攻1年

2023年度ホクコン・フィランソロピー
『安心のカチを造る』Award Bronze賞

指導教員: 教授 伊藤 始

R5.12受賞

青木 洸介 工学部 電子・情報工学科4年

電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞

指導教員: 教授 中村 正樹

R6.1受賞

尾山 阿廉 博士前期課程電子・情報工学専攻2年

電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞

指導教員: 教授 大寺 康夫

R6.1受賞

倉田 真輔 博士前期課程電子・情報工学専攻2年

電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞

指導教員: 教授 大寺 康夫

R6.1受賞

武田 尚恭 博士前期課程機械システム工学専攻1年

ものづくり in とやま 学生論文 最優秀賞

指導教員: 准教授 寺島 修

R6.2受賞

小林 将 博士前期課程機械システム工学専攻1年

ものづくり in とやま 学生論文 佳作

指導教員: 准教授 寺島 修

R6.2受賞

Information

1 富山県立大学県民開放授業（オープン・ユニバーシティ）

～令和6年度前期受講生募集～

本学では、地域の方々に正規の授業を公開する県民開放授業（オープン・ユニバーシティ）を実施しています。簡単な手続きとリーズナブルな受講料で、教養教育科目や専門科目などバラエティに富んだ授業を学生と一緒に受講いただけます。

◆お申込み・お問い合わせ先

富山県立大学地域連携センター（受講生窓口）
〒939-0398 富山県射水市黒河5180
TEL：0766-56-0604 FAX：0766-56-0391
E-mail：openuniv@pu-toyama.ac.jp
URL：https://www.pu-toyama.ac.jp/regional_alliances/lifelong_learning/open_university/



◆募集期間 令和6年3月18日(月)～3月29日(金)

◆授業期間 令和6年4月 8日(月)～8月 7日(水)

◆公開科目 【一般教養科目】
社会学I、心理学I、数学Iなど

【工学部専門科目】
機械力学、ロボット工学基礎、
バイオ医薬工学など

令和6年度より、看護学部専門基礎科目・
専門科目公開予定

◆受講料 1科目5,000円(複数科目の受講可能)
※研究協力会員には半額助成あり。

2 学位記授与式・修了式

令和5年度富山県立大学学位記授与式・修了式を以下のとおり挙ります。

なお、実施方法等が変更となる場合は、県立大学HPでお知らせしますので、ご確認ください。

【概要】

◆日時 令和6年3月16日(土) 午前10時30分～

◆会場 アルビス小杉総合体育センター
(射水市戸破3111番地)

◆その他 ・駐車場は数が限られていますので、ご留意願います。
・また、小杉駅(南口)から会場行きシャトルバスを用意する予定としておりますので、シャトルバスのご利用をお願いします。
・当日の式典の様子は、富山県立大学HPにて同時中継します。



3 公立大学法人富山県立大学安否確認システム(ANPIC)

●安否確認システム(ANPIC)について

本学では「公立大学法人富山県立大学安否確認システム(ANPIC)」を導入しています。富山県で「震度5弱」以上の地震が発生したときは、あらかじめ学生の皆さんに登録していただいているメールアドレス等にANPICから安否確認メールが自動送信され、受信した学生は安否状況を報告することになっています。

上記以外の災害発生時等においては、発生した災害による影響を鑑み、必要に応じて大学の管理者が手動でメール配信を行います。

●安否検索

ANPICは、ご家族が、本学の学生の安否情報を検索して、確認をすることができます。

電話でのお問い合わせには、時間がかかる場合がありますので、ご家族の方は、できるだけ【ANPICログインサイト】のURL*にアクセスして、安否検索をご利用くださいようお願いいたします。なお、安否情報は、平常時は非公開に設定しています。大規模災害時にご家族が学生及び教職員の安否を確認できるよう一時的に公開します。

*本学のホームページの安否確認システムのサイトに掲載しています。



アカペラサークル



皆さん初めまして!アカペラサークル Growingです。当サークルは毎週月、金の午後6時から学生会館で活動しています。歌が得意な人もいれば、作曲に興味がある人、ボーイパに挑戦してみたい人など様々なサークル員で構成されています。

当サークルでは、基本的にライブ演奏を目標として活動しています。大学祭やサークル内だけでライブをすることもありますが、外部でライブをすることもあれば、他大学のサークルやOB・OGと交えてライブをすることもあります。また、アカペラの大会イベントも各地で開催されており、R5年度では石川県で開催されている金沢アカペラタウンに出場しました。全国から年齢問わず様々なバンドが集まるので、色んな人と交流したい人はおすすめです!

初めは上手くできるのか不安になることもありますが、他の部員と一緒に頑張っって練習し、上手く演奏できた時の達成感はとても良いものです。SNSも運用しておりますので、ぜひ気兼ねなく連絡してください! 歓迎します。

X(Twitter): @acp_growing
Instagram: growing_acappella

Schedule

スケジュール【令和6年度】

April
4月

- 4日(木) 入学式
- 8日(月) 前期授業開始

射水キャンパス

- 3月27日(水)~4月5日(金) オリエンテーション
- 2日(水)、3日(木)、5日(金) 学生定期健康診断

富山キャンパス

- 1日(月)~5日(金) オリエンテーション
- 1日(月)、10日(水)~12日(金) 学生定期健康診断

May
5月

- 下旬 研究協力会総会

June
6月

- 1日(日) 学生球技大会

July
7月

- 上旬 サークルリーダー研修会
- 下旬 対面型オープンキャンパス (工学部・情報工学部、看護学部)

射水キャンパス

- 上旬 大学院工学研究科入学者選抜

※令和6年2月1日現在の予定であり、今後予定が変更になる可能性があります。最新の情報は大学HPをご覧ください。

編集後記

能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。皆様の一日も早い復興をお祈りしております。本学におきましても、被害がありました。幸い年明けの授業が予定通り再開でき、教育研究活動が、ほぼこれまで通りに進めることができているところです。

関係各位のご尽力で、富山県立大学ニュース第138号が発行できました。御礼申

上げます。Close Up県大では、令和6年4月から新設される情報工学部について紹介しています。IT人材の不足という課題に応える拡充であり、大いに期待されます。本学は、平成2年に機械システム工学科、電子情報工学科の2学科で開学しました。それが令和6年度には新たに3学部9学科でスタートします。私はこうした富山県立大学の成長とともに過ごしてきました。最近、多くの学生が、学内を行き交うようになって、

活気に溢れてきたと実感しています。

また、県大ニュースでは、受賞情報を掲載しています。これらの受賞は、学生さんの研究活動における努力の賜物です。社会に出ても大学で学んだことを活かして、より一層活躍してくれるものと期待しています。最後になりましたが、1年間県大ニュースの編集後記を担当させていただきました。ありがとうございました。

(広報委員長 真田 和昭)



この用紙は資源保護のためインキは植物油インキを使用しています。